

「建交労とうきょう」はいつでもみなさまからの記事や写真を待っています。
(メール) tohonbukenkouro@smile.odn.ne.jp
ホームページ
http://www.kenkouro.com/

建交労 CTG とうきょう

建交労東京都本部機関紙

発行所
全日本建設交通一般労働組合東京都本部
〒135-0048
江東区門前仲町1-20-3
東京建設自労会館7階
電話 03 (3820)8644(代)
fax 03 (3820)8646
編集発行人 松田 隆浩
1部15円組合費に含まれる(〒60円)

バス運転手不足は賃上げで解決を！バス関連支部 京王新労組 スト集会

バス関連支部(京王新労組)は2月14日(水)要求書を提出し、3月6日(水)に第一次回答を受けました。コロナ禍による輸送人員減少からの回復や、運賃改定(値上げ)効果等、期待高まる春闘です。一昨年と昨年は一時金(春期賞与)をカットする回答でしたが、今年は回避。しかし、賃金のベアには応えない回答です。3月13日(水)の第二次回答では、22年ぶりのベア回答でしたが、物価高には遠く及ばず不誠実回答です。支部は「運転手不足で路線の廃止や減便が続き、京王のバス事業でも運転手不足は深刻な

状況。物価高で実質賃金も目減りする中、わずかなベアでは生活出来ないと主張しました。会社は、期末一時金を出すとの回答でしたが、日々の暮らし改善や、来期に繋がる回答ではありません。会社は、利益が出て初めて賃上げが可能という態度ですが、電鉄バスや京王バスは親会社である京王電鉄の完全子会社・孫会社で、利益は全て親会社に吸い取られています。親会社が労働者の暮らしに責任を取るべきとの主張をしてみました。3月14日(木)の全日ストライキを通告しました。今回も春闘の「見える化」を求め、京王電鉄本社前でのストライキ集会に取り組みました。実質賃金が目減りしているに

もかわらず、春闘すら行わない連合労組がある中、労働者あつての事業だという事を広くアピールするため、本社前で行ったものです。シンガールの大熊氏がオープニングを飾った後、主催者を代表して「内部留保を貯め込む企業に対して「賃上げの声をあげよう」と呼びかけました。中央本部、東京都本部から主催挨拶の後、国民春闘共闘、東京春闘共闘、三多摩春闘共闘から挨拶頂き「物価高騰の中でストライキによって賃上げを迫ろう。また、軍事費より生活保障へ、春闘を盛り上げよう！」と表明されました。最後は団結がんばろうを合唱して終了しました。ストライキで賃上げを迫ろうとの全労連方針に基づいた行動に、昨年は建交労から3人の参加でしたが、今年



京王電鉄はバス運転手に適正な賃金を支払え！



決意表明を述べる藤山書記長

「見える化」を求め、京王電鉄本社前でのストライキ集会に取り組みました。実質賃金が目減りしているに
年は8人の参加で感謝します。しかし都本部全体意思を示すにはまだまだ不十分と考えます。集会後親会社としての責任を果たすよう要求書を提出しました。その後、支部は三多摩地域の仲間がストライキに立ち上がった職場集会に激励参加した他、各地で取り組んでいる春闘アピール集会に参加し連帯して行動しました。【バス関連支部(京王新労組) 執行委員長 佐々木仁】

人材は資産、賃上げで若年層の退職に歯止めを！ 鉄道本部 JR貨物本社前宣伝行動

全国統一行動日の3月14日(水)、鉄道本部として3年目となるJR貨物本社前での抗議・宣伝行動を展開しました。総勢約30人でチラシ入りティッシュ約150個を配布しました。集会は鉄道本部下山書記長の進行で始まり、最初に鉄道本部の森委員長がマイクを持ち、これから交渉に向かうJR貨物会社本社ビルに向かつて「2度の交渉を行ってきたが、会社は経営の厳しさを言うばかりで困窮する社員の暮らしを顧みない。人材はコストではなく資産だ。そのことを重く受け止めなければ若年退職に歯止めがかからないばかりか人材確

保に支障をきたす。今春闘は昨年を上回る回答を引き出し何としても生活改善を図りたい」と厳しく追及しました。道行く人に「今こそ『物価高騰から国民の暮らしを守る』とともに『人間らしく生き働ける社会づくり』『最低賃金全国一律1500円』を組合の力で勝ち取ろう」と訴えました。東京春闘共闘の尾代副代表が駆けつけ、連帯のご挨拶を頂きました。都本部松田委員長からは、京王新労組のストライキ支援の報告を頂きました。JR貨物の職場で東海支社した。JR貨物の職場で東海支社・愛知機関区乗務員として勤務する鉄道本部の安藤副委員長は「子供の教育を受ける権利さえ奪われる低賃金だ」と訴え、同じく関西支社の広島ターミナル乗務員で、鉄道本部の三井執行委員は「列車の安全運行のためにも仲間同士で足を引っ張り合う人事制度を見直すべき」と訴えました。東日本本部の三浦委員長は、JR東日本子会社の東日本環境アクセスの労働者の劣悪な労働条件と非正規の格差の問題を訴えました。鉄道本部の相本執行委員の訴えの後、最後にシニプレヒコールと団結カンパローを三唱して終了しました。行動後は東京地本主催の「お疲れ会」を開催し労をねぎらい合いました。
【鉄道東京地本 執行委員長 井上 敏】



JRは鉄道の安全・安心を守れ！

保に支障をきたす。今春闘は昨年を上回る回答を引き出し何としても生活改善を図りたい」と厳しく追及しました。道行く人に「今こそ『物価高騰から国民の暮らしを守る』とともに『人間らしく生き働ける社会づくり』『最低賃金全国一律1500円』を組合の力で勝ち取ろう」と訴えました。東京春闘共闘の尾代副代表が駆けつけ、連帯のご挨拶を頂きました。都本部松田委員長からは、京王新労組のストライキ支援の報告を頂きました。JR貨物の職場で東海支社した。JR貨物の職場で東海支社・愛知機関区乗務員として勤務する鉄道本部の安藤副委員長は「子供の教育を受ける権利さえ奪われる低賃金だ」と訴え、同じく関西支社の広島ターミナル乗務員で、鉄道本部の三井執行委員は「列車の安全運行のためにも仲間同士で足を引っ張り合う人事制度を見直すべき」と訴えました。東日本本部の三浦委員長は、JR東日本子会社の東日本環境アクセスの労働者の劣悪な労働条件と非正規の格差の問題を訴えました。鉄道本部の相本執行委員の訴えの後、最後にシニプレヒコールと団結カンパローを三唱して終了しました。行動後は東京地本主催の「お疲れ会」を開催し労をねぎらい合いました。
【鉄道東京地本 執行委員長 井上 敏】

東京都本部 組織拡大検討委員会 宣伝行動 「一人でも加盟出来ます！」と呼びかけ

「仕事の不安やお悩みは労働組合にご相談下さい、労働組合に入って職場をかえましょう！」

中央本部が提起する春闘・秋闘の組織拡大についての取り組みを、組織拡大検討委員会として具体化し宣伝行動を開催しました。

2月21日(水)はあいにくの雨天でしたが、東部支部、バス関連支部(京王新労組)、建築設計支部いしずえ分会、中央本部などから仲間が結集し、交代でマイクを握りました。宣伝を行なった門前仲町駅前交差点は仕事帰りで多くの人が行き来しています。ティッシュペーパーを配りながら「建交労東京は、建設、運輸、高齢者等、幅広い職種の間が加盟する組合です。長時間働いているにも関わらず賃金が安い、休みがとれないなど、お悩みは是非建交労に加盟して一緒に解決しましょう！物価高騰の今こそ、大幅賃上げが必要。労働組合に加盟して24春闘勝利を目指そう！」と訴えました。中央本部福富書記次長は、自民党の献金問題に触れながら「多数である私達国民が豊かになるための政治の実現、そして働く者が豊かになるため、会社でも労働組合として多数となり、24春闘に勝利しましょう！」と力強く呼びかけました。

【執行委員 笹原 和樹】



門前仲町交差点で宣伝行動を行いました

24春闘勝利を目指して 3・7 建交労中央行動

「建交労の総力をあげて賃金上げよう、職場・地域で労働組合の役割果たそう」のスローガンをかけ、建交労は3月7日(木)中央決起集会を開催しました。主催者を代表して挨拶をした中央本部角田執行委員長は「私達は向かい風を受けながら走り続け、自ら追い風に変えるたかいたしてきた。まずは要求を出してたたかわないと進まない。諦めずに団結しよう！」と力強く呼びかけました。来賓に日本共産党高橋千鶴子衆議院議員、全労連理事事務局長が駆けつけ挨拶を頂きました。行動提起をした中央本部廣瀬書記長は「大企業の内部留保は530兆円にまで膨らんだ。これは労働者に適正な賃金を払っていないからに他ならない。私達は要求の根拠に確信を持ち、前進を勝ち取るう！」と訴えました。集会後、建設6部会(ダンプ、セメント生コン、重機、防災職業病、建設現場、建設・関連)は大手ゼネコン要請行動を実施。鉄道本部は国会交渉交渉、学童保育部会は国会議員要請行動、トラック部会は国会交渉・厚労省・国会議員要請行動、事業団・高齢者部会は厚労省要請を実施し、各業種の実態を伝えると共に制度改善を迫りました。集会前には、全労連女性部が菜の花行動を展開し、建交労東京女性部が結集しています。



主催者挨拶をする角田中央執行委員長

木密地域の耐震・耐火改修助成制度拡充を求めて 東京建設・関連部会 東京都交渉

東京建設・関連部会は、都内の木密地域における住宅の耐震・耐火助成制度拡充を求め、東京都に対し要請を行いました。建築設計支部いしずえ分会金田正夫建築士は「災害対策をはじめ、環境に負荷がかかる大型開発に頼らない既存の資源を生かす耐震・耐火改修は大変重要な取り組み。しかし、現在の活用状況は中野区、墨田区など一部の区に留まっていく。東京都の責任で市区町村に制度の利用促進を指導して欲しい。」と求めました。東京都から都市整備局市街地整備部防災都市づくり課の課長代理等が応対し「能登半島沖の地震もあり、木密地域の耐震・耐火の助成制度拡充の必要性は改めて共通認識。市区町村との懇談の場で議題に挙げ、この課題に特化して話したい。東京都では地域別に木密会がある。今日の話は是非参考にさせて欲しい。」と回答。部会から「災害が起きても建設業界の人手不足で改修が進まない。町場の仕事を確保す

業種別学習交流会「ビルメン 業界」についてに参加して

3月9日(土)に都本部主催第3回の業種別学習交流会が行われ、松田隆浩執行委員長の報告でビルメンテナンス業界について聞きました。業界の成り立ちは、戦後の日本の復興と高度経済成長による商業ビル建設ラッシュから生まれきたそうです。やがてビルの大規模化により冷暖房、空調、電力、給排水、防災・通信、エレベーターなどの設備を整備・点検する専門技術者が必要となり、今のビル設備のメンテナンス会社が設立され、清掃会社や警備会社と分かれていったとのこと。現在の市場はビルメン4・4兆円、警備3・5兆円ほどで大きな業界となっているそうです。

1995年のIT革命以来、コンピュータが故障を感知するようになり人の手がいらなくなり、松田さんが勤務していた中野サンプラザの宿直も、5人から3人になったそうです。ビルメンの仕事は電気工事士やボイラー技師など複数の資格が必要で、その種類が多いのに驚きました。24時間、365日ビルを見守るために、設備機器の仕様書と設備台帳を作成し、点検表に基づいて点検をしていくそうです。

設備の仕様と数値を読み込み、いく。東京都の責任で市区町村に制度の利用促進を指導して欲しい。」と求めました。東京都から都市整備局市街地整備部防災都市づくり課の課長代理等が応対し「能登半島沖の地震もあり、木密地域の耐震・耐火の助成制度拡充の必要性は改めて共通認識。市区町村との懇談の場で議題に挙げ、この課題に特化して話したい。東京都では地域別に木密会がある。今日の話は是非参考にさせて欲しい。」と回答。部会から「災害が起きても建設業界の人手不足で改修が進まない。町場の仕事を確保す



講師の松田執行委員長

組合掲示板

- 4月10日(水) 12時~国民・東京春闘共闘最賃ビッグアクションデー/厚労省前
- 4月10日(水) 16時半~官民共同実行委員会(東京国公全労連・全国一般東京地本等) 4・10春闘行動/厚労省前
- 4月11日(木) 11時半~神奈川県本部クロネコメイト都労委/都庁第1庁38階
- 5月1日(水) 第95回中央・三多摩メーデー/代々木公園・(三多摩の場所は後日)

る上でも制度拡充は重要。」と訴えました。引き続き各市区町村を含め制度拡充と建設業界の人手不足解消に向けて要請を継続します。【東京建設・関連部会 事務局長 笹原 和樹】